

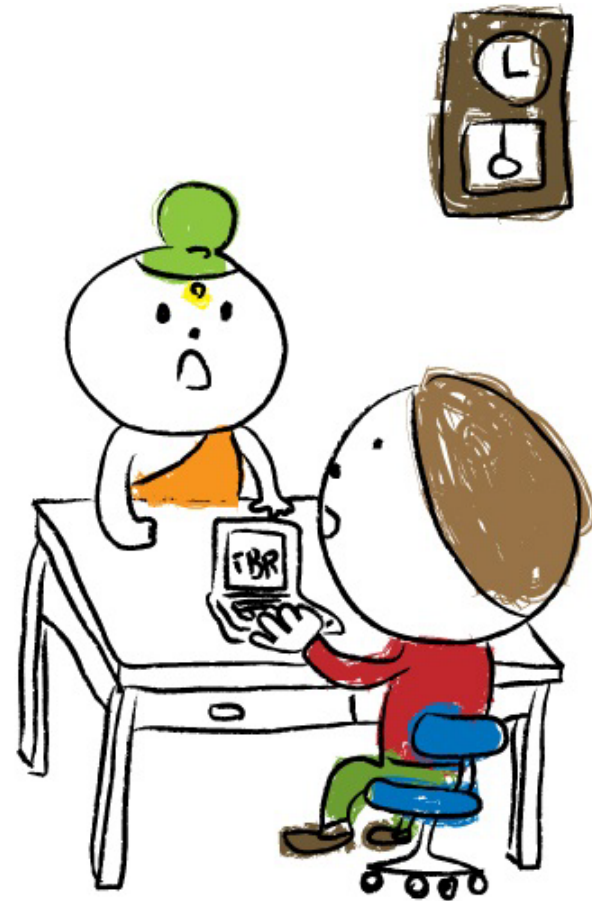
「最大投薬量でも起きていた癲癇 発作がレメディーで抑えられ 減薬できた14歳女子のケース」

道繁 良

JPHMA会長 & 認定ホメオパス No.742

日本ホメオパシーセンター島根安来“CuZen!”

初回相談会 2021年12月21日



【タイムライン】

3ヶ月 BCG

4、5、6ヶ月 DPT×3

1歳MR

1歳5ヶ月 一瞬白目をむき始める

1歳10ヶ月 癲癇と診断され服薬開始

6歳4ヶ月 3年半発作なく服薬停止

6歳6ヶ月 発作再発 6歳7ヶ月 服薬再開

9歳11ヶ月 検査入院→難治てんかんと診断 まばたき発作 脱力発作おさまらず

12歳9ヶ月 脱力発作ほぼ毎日になる

12歳10ヶ月 マイスタン ビムパット デパケンで発作がおさまる
副作用を懸念し手術を提案される

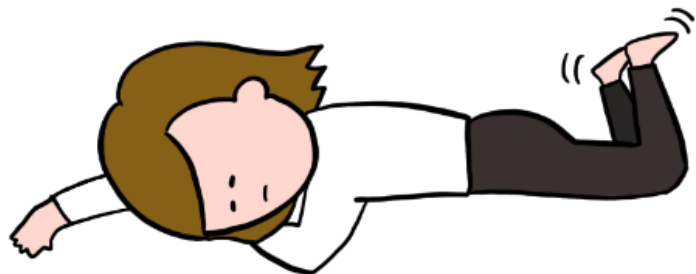
13歳2ヶ月 初回相談会

【症状】

- 薬で抑えられ大きな発作は無い
- 3、4ヶ月に一回程度、脱力発作（前回は8月中旬）
- 脱力発作は通常、朝
- 前方に倒れ、すぐに意識は戻る
- 前日に疲れることがあった時に起きるよう

【症状】

- 薬の副作用から運動機能に影響
- 発話もはっきりしない。
- 質問への返答が鈍く多くは母親に答えてもらう。
- 母親の通う料理教室に付き添う間だるくて寝ころがっている。
- 相談会中も上体をしっかり起こしておれず、前かがみ。



性格

- 食べるのが好き
- 人見知り
- 家では歌ったり踊ったりする
- 貧乏ゆすりをする

【服用してきた薬】

セレニカ ラミクタール トピナ マイスタン イーケプ
ラ エビレオプチマル ビムパット デパケン L-カル
ニチン

【服用中】

マイスタン×3錠 ビムパット×6錠

L-カルニチン×4錠 デパケン×6錠

【状況】

- すでに体重に対する投与可能な最大量を服用中
医師からは副作用を懸念して開頭手術も勧められている。

初回TBR 2021年12月21日

1: 210# 口からの臭気、ひどい(口臭):

2: 971# てんかん様の発作: - 意識の - ない:

3: 1294# 無緊張(たるみ、弛緩):

4: 1687# 朝にく

5: 309# むさぼり食う(貪欲な; 過食症):

6: 1893# 暗闇でく

7: 1158# 弱さ(無力症、無気力、衰弱): - だるさ(倦怠感、疲労や飽き・退屈を感じること)

8: 1081# 感覚鈍磨(低感覚、無感覚):

9: 2007# 物に寄りかかる(もたれかかる): - 体肢を(物の)表面に載せる: - 好転:

レポートライズ 2021年12月21日

順位	レメディ	出現回数	度数合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	Calc.	9	27	1	4	4	4	4	3	3	1	3
2	Sulf.	8	19	3	3	3	2	2		2	2	2
3	Cocc.	7	19	1	3	4	2	3		2	4	
4	Puls.	7	19	3		2	1	3		4	3	3
5	Lyc.	7	18	1	2	3	2	4		2	4	
6	Merc.	7	18	4	2	3	2	2		3	2	

初回処方 2021年12月21日

朝

MT)サポートφMineral 薬の分解で失われミネラル不足

昼(アルポ)

Nux-v LM01 薬の副作用を軽減

夕方(アルポ)

Cocc 30C 癲癇発作に + Gels30C 眼球の痙攣

心がけたこと

- とにかく発作が無い状態を維持し減薬を実現する
- 薬の副作用を軽減することから始める
- 根本体質・抗疥癬マヤズムなど作用の深いレメディーは出さない
- 原因と思われる予防接種や薬剤のレメディーは最初は出さない
- Calc.(カルカーブ)などの根本体質レメディーが示唆される時はミネラル不足と捉える

経過

- 前回の発作から数えて(3、4月に1回)これまでに
ら1回は起きていないはずの発作がなかった。
- 発作がないのは薬の作用かレメディーなのか評価
できないが、発作が起きていないことは成果と捉
え、癲癇に良いサポートティンクチャーとレメディー
をTBRやバナジー・プロトコルを元を選択。

母親のインナーチャイルドと クライアントの病気とのつながり

- 母親は教師ということもあってか『何でもがんばって一人前にできることが善』という強い価値観がみられた。
- 母親は「とにかく普通の子と同じようになれるなら開頭手術もしかたない」と考えている

母親のインナーチャイルドと クライアントの病気とつながり

なんでも人並みにできるよう頑張ってきた母親に、これまでの努力は当たり前ではなくてすごいこと頑張ってきた自分を褒めてもらった。

そのようにしてハードルが下がるとできるのはすごく、できなくても普通と思え、自分にも他者にもやさしくなれる。

結果として娘にもきつく当たらずにすむ。

母親のインナーチャイルドと クライアントの病気とつながり

癲癇をもつ娘さんをこの世的価値観で見ると「他の子と同じようにできない駄目な子」と思われるかもしれない。

けれど癲癇があり、薬の副作用で不自由にも関わらず、穏やかで、学校も楽しいと通い、家族の前で懐メロを振りつきで歌ったり明るく幸せに生きている。

お母さんにダメ出しされることもしょっちゅうだけど、お母さんのことが大好きで相談会中も自分のことを心配して話すお母さんを気の毒そうに気づかっている。

ある意味で普通の子が普通のことのできるよりも大きなチャレンジをしている魂ではないか？

母親のインナーチャイルドと クライアントの病気とつながり

娘さんはお母さんが抱えている「人と同じことができ
て当たり前」という価値観を緩めさせるために来てく
れた子かもしれない。

苦しい人生になると知りながらその役目を受け取っ
てきた霊性の高い魂が娘さんの本質。

その子の真価が分かるには信仰心が大切。

母親のインチャ癒しと霊性生活も同時取り組んだ。

3回目相談会 2022年4月12日

朝1 MT)サポートφTenka 癲癩のサポート
+ Lach 200C 寝起きに悪化
+ Ign 30C 痙攣・失望など心の傷に

朝2 Otoshim-w. 30C 魂の傷に

昼 MT)ケブラコ + Carb-v 30C マスク生活で酸欠

夜 アルポ Nux-v 30C 薬の副作用を軽減

魂の傷を癒す霊水のレメディ

Otoshim-w.【大歳御祖社の手水】

自分は価値のない奴。見下されたり、駄目な奴扱いされた不満や怒りを和らげる効果がある。

この世的価値観で「人と同じことが出来ない(わが子、私)は駄目」と思い込み自己卑下

母親の変化



ひさしぶりに寝ている娘の顔を見て
「この子はこのままで可愛い尊い子じゃないか」と
愛おしく思えて涙が流れた。
何年も忘れていた感覚だった

6回目相談会 2022年10月18日

減薬達成

8月15日の病院の検査があり、2021年12月から22年8月まで8ヶ月発作なく維持できているため第一段階の減薬が医師により行われた

減薬できたもの

- 2021年12月～
- マイスタン3錠、ビムパット6錠、L-カルニチン4錠、
デパケン6錠



2022年8月15日～

- マイスタン3錠、ビムパット6錠、L-カルニチン4錠、
デパケン4錠

8回目相談会 2023年4月4日

- 2022年10月の相談会で上記の減薬の報告を受け、次は12月中を予定していたが(私)流行病感染により延期。
- その後、母親の教職の繁忙期と重なり6ヶ月間があいてしまう。その間、脱力発作(首の脱力から前方に倒れ、すぐに立ち上がる)が起きた。
- 発作は2度だけだったが、両目の不随意のまばたきは残ったまま

8回目相談会 2023年4月4日

1 : 1922# 光輝(輝く光)を見るく

2 : 971# てんかん様の発作 : - 意識のない :

3 : 1148# 単収縮・ぴくぴくする痙攣 :

4 : 31# 眼瞼 :

5 : 1158# 弱さ(無力症、無気力、衰弱) : - だるさ(倦怠感、疲労や飽き・退屈を感じること) :

6 : 1916# 身体的労作一疲労(肉体疲労、倦怠)からく

7 : 625# 水っぽい(薄い) - 鼻汁 :

8 : 579# くしゃみ :

9 : 408# 鼓腸 - 有痛性の(鼓腸性疝痛) :

8回目相談会 2023年4月4日

順位	レメディー	出現回数	度数合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	Phos.	8	18	3	1	3	3	2		1	2	3
2	Nux-v.	8	18	2	1	1	3	3		2	2	4
3	Chin.	8	18		1	2	2	2	2	2	3	4
4	Bell.	8	17	1	3	2	4	2		1	3	1
5	Sep.	8	15	1	3	2	4	1		2	1	1
6	Merc.	7	20	3	2	3	3	3		3	3	
7	Sulf.	7	18		3	3	4	2		3	2	1
8	Verat.	7	18		2	3	3	3	2		1	4
9	Calc.	7	18	3	4	1	4	3			2	1

8回目相談会 2023年4月4日

朝

MT)サポートφTenka まばたき発作

(TBR Merc → Bufo. Allen117:絶えず瞬きしている)

+ Tarent 30C リズムに乗って踊るのが好き

夜

MT)サポートφCho 便秘がち、残便感

+ Nux-v 30C 薬の副作用を軽減

【経過】

- レメディーを摂ってから不随意のまばたきが消失。
その後、発作もなく過ごせている
- これまで薬の効果かレメディーの効果か不明な状態が続いていたが、レメディーの効果を確認してもらえる機会となった。

10回目 相談会 2023年8月4日

随時 Mag-p 30C 便秘の痛み

朝 Cic 200C 頭をどちらかに向ける癲癇、破傷風
以来(DPT)の問題に

夕方 DPT-V 12C 原因と思われるワクチン

夜 Sulph 9X 腸の解毒

【結果】

- 最大投薬量を服用していても数ヶ月に一度起きていた癲癇発作がレメディーで8ヶ月発作がない状態を維持でき減薬に繋がった。
- 薬の副作用と思われるだるさが改善し、母親の付き添いの間も寝転がらず本を読んで待つようになった。
- 相談会中の姿勢も上体をしっかり起こしていただけるようになった。

【結果】

- 質問への返答も発話も改善し、自分で答えることが増えた。
- 減薬から1年2ヶ月後の現在も発作なく元気に過ごしているとのこと。

【考察】

- ホメオパシーは薬を摂りながらも使うことができる
- 癲癇の完治ではなくてもレメディーで発作が抑えられ薬の副作用を軽減できるだけでQOLは大きく向上する
- 減薬を積み重ねていけば、いずれ本来の癲癇の原因にアプローチできるだろう。

【考察】

ホメオパスというのはやりがいはあるが大変な仕事、何年も薬をとっても治らなかつた病気を相手にし、症状はありがたいなど一般的な認識と違うため誤解されることも多い。それでも少ないチャンスの中、結果を出していかなければならない。

真の療法ホメオパシーを今の日本に広げていくことは茨の道ですが、忍耐を持って、ここまで広げてこられた由井名誉会長、松尾名誉会長をはじめ、JPHMAの活動をこれまで支えてくださった職員、理事、ホメオパスの皆様感謝と敬意を表し、私も続いて行きたいと思ひます。

皆様がそのままの自分に自信と誇りをもって幸せに生きられますように



ご清聴ありがとうございました

